

## 高等学校における英語ディスカッションの実践とその考察

坂本美佳

(滋賀県立長浜北高等学校)

### 1. はじめに

目の前にいる生徒は今後社会に出れば答えのない課題に向き合っていかなければいけない状況下におかれている。高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説によると、「知識・技能」を修得するだけでなく、「理解していること・できることをどう使うか(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)」に向けて現場の教師は取り組んでいく必要があると説明されている。加えて、現場では、「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が適切に行われていないとも記されている。このような現状を踏まえると、高等学校の現場では多くの教師が「話すこと」や「書くこと」の指導に困難を抱えていることが課題であると考えられる。また、生徒側の課題としては、答えのない課題への向き合い方、つまり、どのような過程を経てどのように考えていくかの経験を積ませる必要があるのではと考える。この状況を打破するためには、英語ディスカッションを行うことがひとつの解決方法となるのではと考える。英語ディスカッションをすることで、生徒は課題に多角的な視点から向き合う機会を得ることができ、その活動を通して生徒は自らの考えを様々な他の意見と比較することで自分なりの課題に対する答えを出すという過程を経験することができると思う。

### 2. 研究対象生徒の現状と課題

1週間当たり2時間、学校設定科目を受講している本校3年生文系4クラスの生徒160人程度の内、80人程度を指導担当。1クラス(40人程度)は2グループに分割されて授業を受ける。

#### 良い点

- ・素直で、先生からの指示通りに学習活動を行うことができる。
- ・音読などの単純に繰り返す作業には、積極的に取り組むことができる。

#### 課題

- ・内容を深く考える作業を伴う課題からは逃げがちで、チャレンジすることを避ける傾向
- ・主体的に活動することが苦手で、指示されることを待つ傾向
- ・テストは受けるだけで、その後自分の学習結果を振り返ることをしない

### 3. 研究開発の仮説設定

#### ステップ指導

- ・ディスカッションのような高度な活動でも、細かく分けた指導ステップを設けることで生徒が学びの見通しを持つことができ、活動内容の理解が深まり、「一できそう」という

チャレンジ精神を育み、最終的に「一できた」という達成感を持たせることができる。

#### 深い思考

- ・生徒がゆっくりと自分のペースで考える時間をとることで、英語が得意でない生徒でも中身のある思考をすることができ、最終的に、考えついた根拠ある理由を述べることを通して説得力のある発言をすることができる。

### 4. 実践概要

#### 4.1 過去の指導内容とそれを踏まえた本実践の指導対象者（3年生）の指導目的等

	1年生	2年生	3年生
目的	「自分の考えを英語で相手に伝わるように表現できる」	「論題について賛成、反対の立場から深く考え、討論することができる」	「様々な社会問題や日常の話題について、自分の考えと相手の考えを比較し、議論することができる」
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 英語を人前で話すことに慣れる</li> <li>② 自分の考えを英語で表現することができる</li> <li>③ 聞き手へのアイコンタクトやジェスチャーを取り入れて発表することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 多角的な視点を持って、テーマについて深く考えることができる</li> <li>② 自分の考えを理由や証拠をつけて論理的に伝えることができる</li> <li>③ 相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 多角的な視点を持って、テーマについて深く考えることができる</li> <li>② 自分の考えと相手の考えを比較して、自分の意見を論理的に述べることができる</li> </ul>
授業に盛り込んだアウトプット活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レシテーション</li> <li>・show and tellスピーチ</li> <li>・オピニオンスピーチ</li> <li>・プレゼンテーション、</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディベート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーション</li> <li>・ディスカッション</li> </ul>

## 4.2 英語ディスカッションの指導の流れ

### 1 学期テーマ：Aging Japan

Phase 1	DAY 1～3 リスニングとリーディングを通してテーマについて理解する
Phase 2	DAY 1 テーマについて課題と解決策をブレインストーミング（個人→グループ） DAY 2 テーマについての課題と解決策について自分の意見を書く
プレゼンテーションテスト	
Phase 3	critical thinking activity（テーマについて架空の人物の課題についての解決策を考え、自分の考えを英語で書いて、ペアとスピーキング活動を通して共有）
Phase 4	ディスカッション
ディスカッションテスト	
Phase 5	テーマについての自分の意見をライティング

### 2 学期のテーマ：Who is the best life-long partner?

このテーマの選定においては、どのようなテーマで2学期にディスカッションをしたいかについて事前に生徒にアンケートを行った。そして、一番希望が多かった内容（恋愛、結婚）をテーマとした。

Phase 1	DAY 1～2 リスニングとリーディングを通してテーマについて理解する DAY 3 テーマについての追加リーディングと読んだ内容について相手に伝え合うミニプレゼンテーション
Phase 2	テーマについての追加リーディングの詳細情報を読みこむ（ワークシートに記入）
Phase 3	架空の人物に対しての the best life-long partner を選択肢から選びその理由を含めて自分の意見を（assertion →reason→example→assertion）の順に書く。その後ミニプレゼンテーション。
プレゼンテーションテスト	
Phase 4	critical thinking activity（相手の意見に反論する練習。ワークシートに記入）。その後、ディスカッション
ディスカッションテスト	
Phase 5	テーマについての自分の意見をライティング

## 4.3 英語ディスカッションの指導のポイント

- ・すべての活動を行う上で phase と small step を設けることで、生徒が難しいと感じる活動にも段階的に取組めるようにした。
- ・同じ活動を様々な方法で繰り返し行うことで生徒に安心感を持たせ、学習内容の定着につなげるようにした。
- ・テーマについて一人で考える時間を十分にとることで、テーマについて深くかんがえるように指導した。また、先生との1対1で質問できる時間も確保した。
- ・テーマについて、聞く、読む、話す、書く活動をバランスよく取り入れた。
- ・テーマについて複数のインプットを多面的に与え、また、生徒同士の意見を交換する活

動（ペア活動、グループ活動）を積極的に取り入れることで、様々な視点からテーマについて考えられるようにした。

- ・ワークシートを準備し、生徒が自分の学習の過程がわかるように工夫をした。
- ・振り返りシートを生徒に記入させることで、自分の今までの取り組みを見直す機会を設けた。

#### 4.4 評価の方法

- ・定期テストを1年間に2回行い（1学期に1回、2学期に1回）、リスニング70%、リーディング30%の配分とした。また、リスニングをした内容について、リーディングをしたのちにライティングをするなど技能統合型の問題を含めた。
- ・学期ごとに1つのテーマを扱い、年間で2つのテーマを取り上げた。テーマごとに、プレゼンテーションテストを1回、ディスカッションテストを1回行った。

\*評価をする際は、担当教員と綿密に打ち合わせをしてループリックを作成した。プレゼンテーションテストでは、当日の発表と生徒が書いた意見（ライティング）を別々に評価した。当日の発表はポスター、アイコンタクト、英語の発音、ジェスチャーを評価し、後日、ライティングはテーマについての自分の意見を持った理由とその説明を個々に評価した。ディスカッションテストでは、アイコンタクト、内容、質問という3つの項目に分けて評価した。評価は discussion leader 1人と contributors 3人（ディスカッションの参加者）の合計4人を同時に評価した。常に2人の教員体制で評価を行ったが、評価のゆれは見られなかった。

### 5. 生徒の声

生徒の振り返りシートより以下のような意見を聞いた。

1学期： 質問 ディスカッションに取り組んでいる感想は？

#### 肯定的な意見

- ・2年次と比べると一段とレベルが上がり、思っていた以上に苦戦しました。毎回行う度に緊張しますが力がつくのがわかりとても身につけているなど実感します。
- ・難しいことだが、将来社会に出て役に立つことがと思う。
- ・すごく楽しいです。（複数）
- ・班の人と何回も練習を重ねていくうちにだんだん上手くできるようになっていっているのが実感できた。

#### 否定的な意見

- ・とても難しく、準備が大変だった。
- ・本番だとうまく意見を言うことができなかった。
- ・緊張した。
- ・アイコンタクトやその場で意見を考えて言うのが大変。

2学期： 質問 2学期、ディスカッション活動やテストを受けてみた感想は？

**肯定的な意見**

- ・去年や1学期の自分と比べると、自分の意見が言えるようになったと思います。スラスラと話せるわけではないけれど、私にとっては成長したかなと思います。
- ・2年生の時とか、前のディスカッションに比べてグループのメンバーとかとたくさん話し合えたと思うので、その点は良かったと思います。
- ・今までの中で一番良かったように感じた。メンバーとも話し合っただけで出来たし、自分の意見をちゃんと言えた。適当ではなく、しっかりと意見を考えられた。
- ・皆でつくりあげていく過程が楽しかった。こういう活動がコミュニケーション力を養ってくれていると思います。
- ・自分の意見を考え、それを英語になおす能力が多少なりともついたかなと思う。コミュニケーション英語や英語表現では養えない能力がついたと思う。

**否定的な意見**

- ・相手の言ったことに対してすぐに自分の意見を言うことが難しく、うまくまとまらない英語で言ってしまうということが多くあった。
- ・相手に向けて質問が全然できなかった。ディスカッションは難しいと思った。相手がいつているのを聞き取ったり、質問や意見を考えるのが大変だった。アイコンタクトも忘れてしまうことが多かった。
- ・意見を聞いてそれに対して反対意見を述べたり、質問を考えたりするのがすごく難しかった。英語で言うのが難しすぎた。

**6. 考察と結論**

仮説にあげた2点(ステップ指導と深い思考)を中心に論じる。まず、ステップ指導については、ワークシートの中で **phase** と **step** を設けることで、生徒はスモールステップを経ながら、ディスカッションに取り組むことができた。本校の生徒は難しそうと感じられるものには敬遠しがちであるので、このように、少しずつ段階的に活動を行っていくことで、生徒は不安を感じることなくディスカッションに取り組むことができたのではと考える。振り返りシートの中で、「成長した」「楽しい」「能力がついた」等の記述がみられることから、一定程度生徒はディスカッションに前向きに取り組むことができ、力をつけることができたのではと考察する。

深い思考については、自分の意見を書く活動のときにゆっくりとひとりで考える時間をとったことが深く考える機会となったのではと考える。また、教師側の感覚ではあるが、先生との1対1で質問をする時間を設けたことも効果的だったのではないかと推察する。また、グループワークやペア活動で様々な角度からクラスメートの意見を聞く時間を設けたことも特に **phase5** で自分の意見を書く活動に役立ったのではと考える。指導の流れの中で、ただプレゼンテーションやディスカッションを通して話すだけで終わらせずに、最後にテーマについての自分の意見を書くライティング活動を取り入れたことも深く考える上では有効だったのではと考える。

**7. 今後について**

以上のように、ステップ指導を行うことで、英語に苦手意識を持つ生徒でもディスカッ

ション活動に取り組むことで、深く思考をすることができると考えられる。しかし、振り返りシートの中でまだ、「難しい」や「大変」などの記述がみられることから大いに改善の余地がある。今後も英語が苦手な生徒でもより取り組みやすく、「楽しい」と感じられるなど前向きにディスカッション活動に取り組めるように、ワークシートや指導方法を改良し取り組んでいきたい。

#### 参考文献

Richard R. DAY. & Junko Yamanaka. (2012). *Impact Issues 30 KEY ISSUES TO HELP YOU EXPRESS YOURSELF IN ENGLISH*. Pearson Education Asia Limited, Hong Kong

文部科学省. (2018). 高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) 解説 外国語編 英語編. 文部科学省 [https://www.mext.go.jp/content/1407073\\_09\\_1\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1407073_09_1_2.pdf)

プレゼンテーションルーブリック

## Picture Presentation Evaluation Sheet

当日の発表を評価		Class	Number	Name		
		Excellent	Average	Needs improvement	Point	
1	Poster	10	5	0		
2	Eye Contact	10	5	3	0	
3	English Pronunciation/ Intonation, rhythm	10	5	3	0	
4	Gesture		2		0	

後日ライティングを評価

5	1st Reason	3	2	1	0	
6	1st Example Explanation	4	3	2 or 1	0	
7	1st Linking words		2	1	0	
8	2nd Reason	3	2	1	0	
9	2nd Example Explanation	4	3	2 or 1	0	
10	2nd Linking words		2	1	0	
						<b>Total</b>

<b>Poster</b>	10点 ポスターを持ってきて、グラフや絵が書いてある 5点 持ってきたが、見にくかったり、未完成など不具合がある 0点 持ってこない
<b>Eye Contact</b>	10点 自然なアイコンタクト 5点 50%程度のアイコンタクト 3点 少しでもアイコンタクト 0点 アイコンタクトなし
<b>English pronunciation intonation</b>	10点 英語らしい発音とイントネーション 5点 英語らしい発音とイントネーションに努めた 3点 ほとんどカタカナ英語 0点 理解できない
<b>Gesture</b>	2点 ジェスチャーを入れることができた 0点 ジェスチャーなし
<b>Reason</b>	3点 説得力ある理由を書けた 2点 内容に合致するなんらかの理由を書けた 1点 理由は書けたが内容に合致しない 0点 何も理由が書けなかった
<b>Example Explanation</b>	4点 2文書けた。説得力ある例や説明を書けた 3点 2文書けた。内容に合致するなんらかの例や説明を書けた 2点 2文書けた。例や説明は書けたが内容に合致しない 1点 1文しか書けていない。 0点 何も例や説明を書けなかった
<b>Linking Words</b>	2点 リンキングワードが適切に2つ使えている 1点 リンキングワードが適切に一つ使えている 0点 リンキングワードが一つも適切に使えていない



ディスカッションテスト ルーブリック

Discussion Test

class ( )

	アイコンタクト 15 points	内容 15 points	質問 15 points
DL NO. ( ) Name	<p>15 常にアイコンタクトができていた</p> <p>10 50%以上はアイコンタクトができていた</p> <p>5 アイコンタクトがほとんどできていなかった。</p> <p>0 全くアイコンタクトができていなかった</p>	<p>15 伝えたいことが明確に言えた。説得力のある理由を持って、自分の意見を説明することができた。</p> <p>10 伝えたいことが言えたが、説得力に欠ける。なんらかの理由が言えた。</p> <p>5 相手の意見に賛成もしくは反対できたが、理由は言えなかった。</p> <p>0 何も言えなかった。</p>	<p>15 関係のある質問を2つ以上作ることができた。</p> <p>10 関係のある質問を1つ以上作ることができた。</p> <p>5 なんらかの質問を作ることができたが、関係性がない。</p> <p>0 何も質問することができなかった。</p>
C1 NO. ( ) Name	<p>15 常にアイコンタクトができていた</p> <p>10 50%以上はアイコンタクトができていた</p> <p>5 アイコンタクトがほとんどできていなかった。</p> <p>0 全くアイコンタクトができていなかった</p>	<p>15 伝えたいことが明確に言えた。説得力のある理由を持って、自分の意見を説明することができた。</p> <p>10 伝えたいことが言えたが、説得力に欠ける。なんらかの理由が言えた。</p> <p>5 相手の意見に賛成もしくは反対できたが、理由は言えなかった。</p> <p>0 何も言えなかった。</p>	<p>15 関係のある質問を2つ以上作ることができた。</p> <p>10 関係のある質問を1つ以上作ることができた。</p> <p>5 なんらかの質問を作ることができたが、関係性がない。</p> <p>0 何も質問することができなかった。</p>
C2 NO. ( ) Name	<p>15 常にアイコンタクトができていた</p> <p>10 50%以上はアイコンタクトができていた</p> <p>5 アイコンタクトがほとんどできていなかった。</p> <p>0 全くアイコンタクトができていなかった</p>	<p>15 伝えたいことが明確に言えた。説得力のある理由を持って、自分の意見を説明することができた。</p> <p>10 伝えたいことが言えたが、説得力に欠ける。なんらかの理由が言えた。</p> <p>5 相手の意見に賛成もしくは反対できたが、理由は言えなかった。</p> <p>0 何も言えなかった。</p>	<p>15 関係のある質問を2つ以上作ることができた。</p> <p>10 関係のある質問を1つ以上作ることができた。</p> <p>5 なんらかの質問を作ることができたが、関係性がない。</p> <p>0 何も質問することができなかった。</p>
C3 NO. ( ) Name	<p>15 常にアイコンタクトができていた</p> <p>10 50%以上はアイコンタクトができていた</p> <p>5 アイコンタクトがほとんどできていなかった。</p> <p>0 全くアイコンタクトができていなかった</p>	<p>15 伝えたいことが明確に言えた。説得力のある理由を持って、自分の意見を説明することができた。</p> <p>10 伝えたいことが言えたが、説得力に欠ける。なんらかの理由が言えた。</p> <p>5 相手の意見に賛成もしくは反対できたが、理由は言えなかった。</p> <p>0 何も言えなかった。</p>	<p>15 関係のある質問を2つ以上作ることができた。</p> <p>10 関係のある質問を1つ以上作ることができた。</p> <p>5 なんらかの質問を作ることができたが、関係性がない。</p> <p>0 何も質問することができなかった。</p>

\*ディスカッションリーダーをしっかりと努めることができれば、+5点

\*ディスカッションに3回以上参加できれば、+5点（ディスカッションリーダー以外の人）

（例えば、相手の意見に反対し自分の意見を伝える1回、誰かに質問1回、別の誰かの意見に賛成か反対する1回。）

\*各グループ7分間のテストです。（最低でも5分間は続けよう。続かない場合は、一人づつ-5点。グループでがんばれ！）

\*相手の発言をさえぎった場合は1回につき、-3点。相手の意見をしっかりと聞こう！

